

若竹ミュージカル

オペラ

『口はロボットの口』



東京学芸大学附属特別支援学校
卒業生・家族・教員、支援者
若竹ミュージカルオーケストラ
指揮：広井 隆

オペラ

『口はロボットの口』



台本：鄭義信 作曲：萩京子
オーケストラ版編曲：萩京子、大部胡知
構成・演出：若竹ミュージカル演出部

東京学芸大学附属特別支援学校
卒業生・家族、支援者
若竹ミュージカルオーケストラ
指揮：広井 隆

2012年11月23日（金）勤労感謝の日
開場：13：00
開演：14：00
会場：東京学芸大学 芸術館・学芸の森ホール

ごあいさつ

オペラ「口はロボットの口」の公演にあたって

～ ご声援とご支援をお願い申し上げます～

若竹ミュージカル後援会会長
東京学芸大学名誉教授 松矢勝宏

今回の公演は2つの記念すべき特徴があります。第一は、今までのミュージカル公演は、ブロードウェイで公演され、映画化された大変人気のあるミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』をはじめ『ウエスト・サイド・ストーリー』、『屋根の上のヴァイオリン弾き』に挑戦してきたことです。出演者にとって大変難しい作品ですが、ご来場くださる方々にとって魅力ある歌曲でいっぱいですから、若竹ミュージカルオーケストラが序曲を奏でると同時に、会場全体が楽しさでいっぱいになるというメリットがありました。

ところで今回は新しいジャンルに挑戦します。これが第二の特徴です。こんにやく座の萩京子先生の作曲によるオペラ『口はロボットの口』です。はじめは先生のご快諾により演奏会方式で公演しましたが、今回は本格的なオペラとしての公演になります。物語は、愛と勇気という人間にとって普遍的なテーマと科学技術とエコロジーの調和という現代的なテーマが絡みあって展開しますが、子どもから大人まですべての世代が楽しめる素晴らしいオペラです。でも出演者にとっては今まで以上に汗を流す挑戦になりました。

来年は若竹ミュージカルが誕生してから20周年になります。この公演を来年の記念年のプロローグとして位置づけたいと存じます。皆さんもご案内のように、ミュージカルであれ、オペラであれ、総合芸術ですから、大変に費用がかかります。基本的には東京学芸大学附属特別支援学校の卒業生と保護者のうち音楽が大好きな方々が集まり、また有志教員や市民が支援者になり、さらに在校生の音楽教室に協力してきた東京学芸大学管弦楽団のOB・OG、そして楽団を指導する指揮者であり若竹ミュージカルの総監督である広井隆先生の協力によって成り立つ全員参加型のミュージカル活動なので、日常的には手弁当主義で運営しています。しかし、公演活動となると大道具・小道具等の製作や運搬などでかなりの費用が必要です。そういうわけで、私たち応援団で若竹ミュージカル後援会を結成し、募金活動をしてきました。どうか私たちの活動にご理解をいただき、賛助の環を広げるために皆さまのご協力を心よりお願い申し上げます。

若竹ミュージカルの不思議な魅力！

映画「空想劇場～若竹ミュージカル物語～」 監督 金聖雄

「若竹ミュージカルとは？」と聞かれれば迷わずこう答える。

「歌はへた、踊りもいまいち、でもなんだか感動する！」

今までそんなミュージカルは観たこともないし、聞いたこともなかった。

なんといってもミュージカルで一番大切な歌と踊りがいまいちなのだ、本来なら話にならない。ではなぜ感動するのか？「障害があるのに良くやっている！」もしそんな風に思ってしまうとしたらとても残念だ。彼らの舞台に心動かされるのは「本気かどうか！」ということだと思う。音楽監督の広井隆さんはこう言っている。「ものづくりにこれで良いということはない。それぞれ高さは違うけどプロセスが大切」。

表現活動には、関わる人たちの生きざまが反映される。そこに障害があるとかないとかは関係ない。くどいようだが障害があろうがなかろうがダメなものはダメで、良いものは良いのだ。

若竹ミュージカルの最大の魅力は「本気度」。なぜならミュージカルがメンバーひとり一人の生き甲斐であり、生活の一部になっている。知的障害や自閉症、ダウン症など障害のあるメンバーは心底、歌や踊りを楽しんでいる。支援者のつもりだった親たちは今や俳優としての意識のほうが高い。演出部は決して思い通りにならない役者たちをどうすれば生かせるかを考え、オーケストラが一段とミュージカルをグレードアップさせる。そして音楽監督は世界一難しいミュージカルの指揮に真っ向から挑戦している。

そんな個々の生きざまが共鳴し合いミュージカルを創りあげていく。ゆっくりゆっくり「生きる」という作業と一緒にミュージカルを完成させていくのだ。それが舞台上で表現された時に言葉では言い表せない感動を呼ぶのである。

結成から 19 年。これまで『サウンド・オブ・ミュージック』『ウエスト・サイド・ストーリー』『屋根の上のヴァイオリン弾き』とオリジナルとはひと味もふた味も違う名作を創りあげてきた。そしてこんどは『口はロボットの口』というオペラにチャレンジ。どんな舞台が繰り広げられるのか実に楽しみだ。

2012 年、ドキュメンタリー映画「空想劇場～若竹ミュージカル物語～」が完成、話題を呼んでいる。自画自賛するが映画もまた若竹ミュージカルの不思議な魅力でいっぱいだ。特別に何か起こるわけではない。でもなんだか知らないけど面白い、心地いい、不思議な気持ちになる。そんな映画に仕上がった。ぜひ観ていただきたい。

さて進化を続ける若竹ミュージカル。

「歌はへた、踊りもいまいち、でもなんだか感動する！」

なんとも言えない不思議で魅力的な世界をみなさんと一緒に楽しみたい。

これがオペラ？新しい音楽表現の境地を体感

若竹ミュージカル代表 工藤傑史

作曲者の萩京子氏曰く「未来のようで未来ではない、昔のようで昔ではない…」、この不思議なオペラ『口はロボットの口』とのお付き合いも3年目を迎えました。

この3年間を振り返ると、1年目はミュージカル作品でやってきたように、「プロローグ（ぼくはロボットです）」や「エピローグ（テトのパンはあ）」のようなメロディが馴染みやすく、しかも作品のテーマになっているような歌の練習から始めました。そこまではこれまで通りに練習が進みました。

そして2年目。「パン工場」や「ぼくのおなかの中で」など、曲のハードルがぐ～んと上がり、音程や拍子が急に難しくなりました。加えて、これまでのミュージカルではセリフで表現していたところにもメロディーやリズムがついて、切れ目のない曲の中で物語を歌い続けなくてはならない箇所がたくさん出てきました。

例えば、第5場「ココの家」で、テト（主人公のパン製造ロボット）に差し出されたパンを初めて口にするエド（ココの父：パン職人）とココ（娘）のやりとり…。

エド「あ うまい！なんておいしいんだ。私だってこれほどのパンはつくれんぞ。ココ、おまえも食べてごらん…」

ココ「あ おいしい」

エド「あ うまい」

ココ「おもわず あ」

エド「びっくりして あ」…

このやりとりのすべてにメロディーがついて歌われるのです。そこから、本当の意味でオペラの世界へ足を踏み入れました。難しい歌い回しは一度セリフにして表現してから、そこにメロディーやリズムをつけてみる…。その歌い回しに慣れたら、それを曲の寸法の中で歌えるようにしていく…。この作業はそれなりにたいへんでしたが、萩京子氏のおしゃべりをそのまま歌にしたようなすてきな音楽と、登場人物のユニークなキャラクターの魅力に支えられて、練習を重ねる毎にだんだんオペラらしくなってきました。

そしていよいよ3年目。最近の練習では、一つ一つの言葉が音楽と結びつくことによって、これまでのセリフで表現してきた時とはまたひと味違う音楽表現の世界が、より繊細に、よりイメージ豊かに表現されて来ました。これがオペラなんだ！この頃は美味しいものを口にした途端に「♪あ うまい」と自然にメロディーがついて口をついてくることも増えました。若竹ミュージカルでは当分このオペラ会話なるものが流行しそうです。本日の公演では、そんな若竹版オペラの集大成をどうぞお楽しみください。

最後に、このすてきなオペラの演奏の機会を与えてくださった鄭義信氏、萩京子氏、この作品を若竹ミュージカルのためにオーケストラ版に編曲してくださった萩京子氏、大部胡知氏、いつも公演に際して照明で応援して下さる東京学芸大学の演劇ゼミのみなさん、バックコーラスを盛り上げて下さる劇団「おとみっく」（東京学芸大学 加藤富美子先生自主ゼミ）のみなさんに心からお礼を申し上げます。



オペラ『口はロボットの口』

2012年公演の構成

プロローグ

1. パン工場

2. ひとり旅

(3. イーストランドの門はカット)

4. イーストランドの市場

5. ココの家

6. イーストランド城

7. ココの家

休 憩

8. イースト城

9. ココの家

10. 北の塔

11. ココの家

12. イースト城

エピローグ



ものがたりと歌とダンス

未来のようで未来でない、昔のようで昔でない、不思議な世界の話。

(作曲者：萩京子さんのことば)

パンを作るロボット テト、テトの友達のココ、愛すべきパン職人のエド (ココの父)、パン製造ロボットを作ったドリトル博士、テトの母 (がわり) のママ モンロー。そこに、イースト城では、魔女ノーマ、カエルに変えられた王様シオン、大臣たち、わがままなお后様ジーンや金貸しのマニー・・・まるでおとぎ話とSFを合わせたような物語。

テトがたったひとつ得意なもの、それはパン作り・楽しいパン作り。「パンを作れなくなったら、ボクがボクでなくなる・・・。」そんな思いで旅に出るテトのお話です。

プロローグ

♪ほくはロボットですーパンロボット6人・全員ー

パン製造ロボットR K J 5 0 2 A 0 0 1名前はテト。苦手なことは、手と足の指を足しても足りない位。テトの自己紹介です。(6人のテトが登場し歌に合わせて、振りをします。)

1パン工場

♪パン工場ーママ モンロー・テト・パンロボット達・マリリン・ヘンリーじいさんー

テトは、毎日千個作っていたパンがだんだん作れなくなっていました。心配したママ モンローは、「働き過ぎだから、休んでいいよ。」と歌います。「もしも、パンが作れなくなったら、ボクがボクでなくなっちゃう。」と言うテトに、逆にその思いに応じ、ドリトル博士の元へ行かせます。

2ひとり旅

♪てってこてとてとーコーラス・テトー bー柳の精、川の精ー

♪たったひとつ得意なことーテトー

パン作りロボットのテトは、てってこてとてと歩いて行きました。

テトを直してくれるドリトル博士の住むイーストランドをめざして。

怖い・困難な場面にめげそうになりながらも、「ボクがボクであるために・・・」と、たったひとつ得意なこと (パン作り) を歌います。

3イーストランドの門 (カット)

4イーストランドの市場

♪イーストランドの市場ーどろぼう市場の人たち (ダイヤ・サファイヤ・花子・ルビー)ー

イーストランドに着いたテトを待っていたのは、市場の人たちです。

この市場は、どろぼう市場。あやしげな風体で歌いながら、人をたぶらかして誘惑しています。だまされそうになったテトを助けてココは家に誘います。

5ココの家

♪はぁぁぁぁぁなにもないーエドー

ケチで欲ばりなお后様ジーンのせいでだまされて、パンを作る材料がない・・・とココのお父さん・エドが歌います。

♪ごめんくださいカネー金貸しマニー (もとはカエルだった)ー

借金の300イーストランド金貨を取り立てに金貸しマニーがやってきました。

「この家は絶対渡してはだめ。」と言うココ。困っている様子を見てテトは「パンを作りましょう。」と提案。

♪ほくのおなかの中でーテト・町の人たち・ココ・エドー

♪テトのパンはあー町の人たち・ココ・エドー

二人の目の前でテトはパンの種を取り出し、お尻から見事にホカホカのパンを生み出します。テトのパンのおいしさに感動したエドとココは、パン屋を再開。またたく間に売り切れ、300イーストランド金貨を稼ぐことができました。

6イーストランド城

♪なんておいしいパンーお后ジーン・シオン達 (カエルに変えられている王様達)
・金貸しのマニー・魔女ノーマ・侍女達ハローー

テトが作ったパンに夢中になったお后ジーン。もっともっと欲しくてたまりません。ロボットが大嫌いな魔女ノーマ達が歌います。ノーマの退場後、金貸しのマニーが現れ、「パンを作るロボットが欲しいか？」とジーンに持ちかけます。

7 ココの家

♪花捲 (ホワジュワン) -テト-

ココの頬に触れたテトは、柔らかくて遠い中国にバラの花の形をした花捲 (ホワジュワン) というパンにたとえて、淡い恋心を歌います。
別の証文を示され、600万イースト金貨の借金があることを知ったエドとテト。そこへ金貸しのマニーが現れて、借金のかたにテトをお城に連れて行きます。

休 憩

8 イースト城

♪♭パパパパン パン -ジーン・ハロー・シオン、タンゴグループ、もっと隊-

ジーンが「もっとパンが欲しい!」と歌い、タンゴグループやもっと隊が景気をつけて踊ります。

♪あのパンが食べられなくなってしまう -ジーン・マニー-

ジーンとマニーのかけひき。パンをもっと食べたいためロボットを直したいお后様ジーン。ココを死刑にするために、罪を作るといふ金貸しのマニー。

9 ココの家

♪ココのアリア -ココ-

ココはお月さまに、テトの無事とテトの帰りを祈って歌いあげます。

10 北の塔

♪北の塔 -ドリトル博士・テト・町の人たち-

ドリトル博士が幽閉されている北の塔に、壊れかけたテトが運び込まれます。
ドリトル博士の処置で目を覚ましたテトは、直してくれるように懇願します。
「あんなつまらない人間たちのためにパンを作ることなどない。」とドリトル博士。ふと窓の外を見ると、ココの家が燃えています。「ココを助けなくちゃ。」と激しく壁にぶつかっては倒れ、また起き上がるテト。自分が壊れてもココを助けたいというテトの気持ちに押されて、博士はテトに応急処置をほどこしました。
「ロボットに感情が?!」

11 ココの家

♪燃え上がる火がイーストランドの -コーラス (町の人たち) -

燃えさかる火の中から、ココと金貸しマニーを助け出すテト。それにもかかわらず、「火をつけたのはこのロボットだ。」と告発するマニー。テトは役人達にお城に連れて行かれます。今度は自分たちが助ける・・・と立ち上がるココとエド。

12 イースト城

♪悪い予感が黒雲になって -魔女ノーマ・シオン (蛙) ココ・テト-

魔女ノーマに内緒でロボットを運び込んだり勝手なことをしたジーン達。怒ったノーマがテトを壊そうとするところへ、ココとエドがピストルを持って登場。ジーンは、魔法に誤ってかかり消滅。最後のパンの種をノーマの口めがけて放り投じたテト。ノーマの身体はふくれあがり爆発。魔法がとけて王様達に戻ったシオン達、カエルに戻ったマニー。

♪だめだ。たてないよ -テト・ココ・ドリトル博士-

すっかり弱って動かなくなったテト。「不可能を可能にするのが科学者。」とココに迫られ、ドリトル博士はテトを直す事に・・・。

エピローグ

♪新しい朝・テトのパンはあ -パン職人・ココ・全員-

テトはまだ眠り続けています。
ココはテトが目覚めるのを待ち続けています。エドと一緒にパンを作りながら、待ち続けています。
「また、新しい朝がきたんだよ、テト。早く目を覚ましてよ、テト。
新しい朝だよ、テト。」

♪ 曲 -歌う人- ♭ ダンス -踊る人-

(演出部:三輪禎子、山本正子)

キャスト紹介

相磯 君絵 (コーラス隊)	栗山 和宏 (ヘンリー爺さん)	清野 三千子 (コーラス隊)	冬木 理紗 (コーラス隊)
相磯 岳史 (市場の人)	小島 訓子 (市場の人)	関 千晶 (市場の人)	堀内 和子 (コーラス隊)
生田 しおり (コーラス隊)	小島 諭 (シオン)	関 久江 (コーラス隊)	堀内 熙 (街の人)
石黒 真衣子 (市場の人)	小林 憲治 (市場の人)	田口 雅之 (ダンス隊)	松矢 勝宏 (コーラス隊)
石黒 芳子 (市場の人)	小林 美保 (市場の人)	高岡 由季 (コーラス隊)	三島 由梨 (コーラス隊)
伊藤 公一 (マニー)	小林 竜一 (シオン)	谷山 いづみ (市場の人)	三輪 禎子 (ママ・モンロー)
伊藤 敬子 (市場の人)	近藤 さと子 (市場の人)	谷山 洋子 (コーラス隊)	茂木 季 (ココ)
植田 久 (エド)	近藤 由紀子 (市場の人)	坪上 義子 (ハロー)	盛生 桂子 (市場の人)
大野 優子 (コーラス隊)	坂井 照子 (市場の人)	戸谷 さほ (ダンス隊)	盛生 正子 (街の人)
小野寺 邦江 (市場の人)	坂井 智明 (街の人)	戸谷 好秀 (コーラス隊)	山口 梨恵 (コーラス隊)
小野寺 恵江 (コーラス隊)	佐藤 佳代 (川の精)	戸田 尚幸 (テト)	山本 正子 (コーラス隊)
河西 正子 (コーラス隊)	清水 志保子 (市場の人)	戸田 玲子 (ジーン)	行友 宏文 (役人)
河西 美保子 (ハロー)	清水 美恵子 (市場の人)	長田 翔平 (市場の人)	吉田 進也 (コーラス隊)
春日 貴代志 (ダンス隊)	白川 博子 (コーラス隊)	根本 友己 (役人)	
加藤 彩 (ハロー)	白川 優子 (市場の人)	橋本 明子 (ノーマ)	今回出演しない仲間
加藤 富美子 (コーラス隊)	鈴木 文雄 (コーラス隊)	福井 晴美 (コーラス隊)	津田 愛子
上林 やよい (柳の精)	鈴木 真奈 (マリリン)	藤井 佑樹 (シオン)	津田 淳子
木村 智子 (川の精)	鈴樹 裕一 (役人)	藤江 真二郎 (ダンス隊)	上田 徹
工藤 傑史 (ドリトル博士)	清野 友規 (街の人)	藤江 もと子 (コーラス隊)	上田 恭子

若竹ミュージカルオーケストラ

指揮：広井 隆

赤澤秀行 (Trp)	島田 栄子 (Vc)	Vn : ヴァイオリン
飯島 友香里 (Hr)	田中 博 (Vc)	Va : ヴィオラ
池本 登 (Hr)	田邊誠子 (Perc)	Vc : チェロ
大串 清文 (Cb)	谷口 晶子 (Vn)	Cb : コントラバス
大関智子 (Fl)	谷口 良二 (Trb)	Fl : フルート
小澤 耕平 (Ob)	鳴瀬絵理 (Cl)	Ob : オーボエ
工藤 久美 (Piano)	庭野友希 (Cl)	Cl : クラリネット
小松 拓巳 (Va)	蜂須 健司 (Vn)	Fg : ファゴット
坂下万里子 (Vn)	森永 佳代 (Vn)	Hr : ホルン
佐藤 寛治 (Fg)	矢浪 陽子 (Perc)	Trp : トランペット
		Trb : トロンボーン
		Perc : パーカッション
		Piano : ピアノ



広井 隆 (ひろいたかし)

東京芸術大学指揮科卒業

三石 精一、金子 登、エルヴィンボルン、渡辺 暁雄、山田一雄諸氏に師事。1974年、安宅賞受賞、日本指揮者協会会員、日本演奏連盟会員。

1992年より、東京学芸大学附属特別支援学校に於ける東京学芸大学管弦楽団「音楽教室」で指揮を執られ、児童、生徒、保護者より絶大な信頼をよせられている。

1996年より、『ウェスト・サイド・ストーリー』、『サウンド・オブ・ミュージック』、『屋根の上のヴァイオリン弾き』で若竹ミュージカルの指揮ならびに指導をいただいている。

スタッフ・公演協力者

相磯 嘉雄
會澤 加奈子
市原 一宏
市原 弘乃
伊藤 敬子
植田 源
植田 千代子
大串 清文
大関 智子
大野 優子
風間 信治
河西 正子
春日 三枝子
加藤 亜紀
加藤 富美子
木村 希代子

工藤 傑史
工藤 久美
栗山 和枝
越川 徹郎
小島 詔
小島 訓子
小林 幸子
小林 春江
小林 美沙子
近藤 和子
近藤 由紀子
坂井 照子
佐藤 順子
清水 美恵子
鈴樹 勝子
鈴木 千夏

鈴木 文雄
関谷 良美
世良 隆浩
高橋 佳子
田口 みどり
立山 直子
谷口 良二
坪上 禮子
戸田 玲子
長田 菜穂美
根本 友己
橋本 明子
平野 亜紀
福井 晴美
藤江 もと子
藤井 弘美

三輪 禎子
茂木 千沙
矢間 直世
山本 正子
行友 喜代子
渡辺 勝重

東京学芸大学
表現コミュニケーション専攻
(國本紗季 清水理央 白石みさと)
出口研究室の皆さん
橋本研究室の皆さん



プロフィール

萩京子(はぎきょうこ): 作曲

東京都出身。1978年、東京芸術大学作曲科卒業。1979年よりオペラシアターこんにゃく座の座付作曲家・ピアニストとして活動。1997年より音楽監督、2004年、代表に就任。主なオペラ作品は、宮澤賢治原作による『シグナルとシグナレス』『北守将軍と三人兄弟の医者』『注文の多い料理店』、シェイクスピア原作・『十二夜』(林光と共同作曲)、『夏の夜の夢〜嗚呼!大正浪漫編』、その他『金色夜叉』『まげもん』『にごりえ』『好色一代男』『ネズミの涙』など。合唱曲『飛行清』(寺山修司:詩)『朝のパン』(石垣りん:詩)『きもちのふかみに』(谷川俊太郎:詩)『はっばとりんかく』(まど・みちお:詩)など。古今東西の詩人の詩によるソング多数。こんにゃく座以外の劇団への劇音楽も多い。

鄭義信(ちんういしん): 台本

兵庫県出身。劇作家、演出家。93年に『ザ・寺山』で岸田國士戯曲賞を受賞。『月はどっちに出ている』の脚本で、毎日映画コンクール脚本賞、キネマ旬報脚本賞などを受賞。98年には、『愛を乞うひと』でキネマ旬報脚本賞、日本アカデミー賞最優秀脚本賞ほか数々の賞を受賞。2008年の日韓合同公演『焼肉ドラゴン』(新国立劇場)では、鶴屋南北戯曲賞、読売演劇大賞、伊國屋演劇賞 個人賞など、その年の演劇賞を総なめにした。映画、演劇、テレビの分野で活躍。また、こんにゃく座の『口はロボットの口』『まげもん』『ネズミの涙』などの作品でオペラ台本・演出を担当している。

2012 小金井祭公演に向けての練習風景

川の精が
水の動きを工夫しています

マエストロから
ソリスト達への
アドバイス



「ヤッター！」と
マニーは大喜び



「行っちゃダメ、
戻ってきてテト！」



「♪あうまい！」
「あっおいしい」
「おもわず“あっ”」



本番に向け
オーケストラと
響き合い



「さあこれを投げて」

「ゲーロ、ゲーロ」と
カエルに変えられた
王様と大臣たち



赤ちゃんの頃からパパと
ママの練習に参加



「若竹まつり」で若竹ミュージカルを紹介
(2012.10.14)

広報活動



広報誌 GO² ブロードウェイも
2012.7.22 に 200 号を発刊
1号からのファイル！！

南アルプス市連合PTA学習会での公演
2011.11.26



バス2台で会場に到着



開演前に客席のお客様と一緒に
"テトのパンは あ"を練習!!



南アルプス市櫛形生涯学習センター あやめホールの前で

ドキュメントタリ-映画
上映会点描



武蔵野スイングホールは満席!!
(2012.4.27)



広島上映会の受付準備
(2012.5.4)



全国国立大学附属学校 PTA 連合会
での上映会 (2012.10.5)

Viva 若竹ミュージカル!

Part XII

今回のテーマは「パンとわたし」

「パンとわたし」

18回卒 坪上義子

私は、メロンパンが大好きです。皮がかりかりして、干しぶどうの入っているのは、甘くて好きです。

坪上禮子

日中戦争の頃のパンは、ジャム、クリーム、あんパン、食パン位で、おやつだった。戦争が拡がり、物がなくなり、食パンは一人半斤並ばないと買えなくなった。太平洋戦争になると、米は勿論、小麦粉も少量の配給しかなく、パンなど見ることもさえない。敗戦前後の数期間は、どうして生き延びられたのか思い出だけでも辛く悲しい……。 “背中とお腹がくっつい” ていた。

敗戦後は、少しずつ闇市などに食料品が出始め、卒業して勤めた所の地下に、今のお弁当屋風の店が出来た。ある日そこで、食パンにコロッケ、刻みキャベツを挟んだパンを見つけて、それを食べた時には、震える程なつかしく嬉しかった。しばらくして、青山に「ドンク」が開店し、フランスパンを販売するとの記事が載り、当日は長い行列だったとか。その後、私も渋谷で本式のフランスパンを手に入れた。長い紙袋に入ったパンの皮の固い手触り、久しぶりのパンの香ばしい匂い、平和であることの幸せ。

今、どこの街でもパンが一杯、溢れそうだ。菓子パン、お惣菜パン。わくわくするのだけれど、“こんなに品物が溢れていていいの” との声が、どこかから聞こえてくる。どう考えたらよいのだろう。

てくれるのをのせてトーストする)そしてクリームパンも好物です。ミュージカル公演に出かけてくれるお客様、僕たちの大切にあってきた「口はロボットの口」をゆっくりみて下さい。心よりお待ち申し上げます!!!

「パンとわたし」

植田千代子

私たちパンといえば、終戦後の代用食!それでも、あの食糧難の時代、配給の小麦粉をパン屋さんに持参、「進駐軍のパン」と称しとても白くてキメの細かい食パン。はっきりした記憶ではないけれど、これほど美味しい食パン、当時、すごく贅沢な食感でした。上等のこのパンはパン屋さんも少量しか焼かず、早く開店時に行かないと手に入りません。少量の小麦粉の量で、上等～普通とパンに差があったようです。学校給食は5・6年生頃のコッペパン、これは余りおいしくなく、うれしい思い出ではありません。空腹を満たしてくれるだけのもの。近頃は贅沢な時代になりました。美味しいパンが溢れ、お菓子感覚。なんだかバチが当たるオモイです。

「パンとわたし」

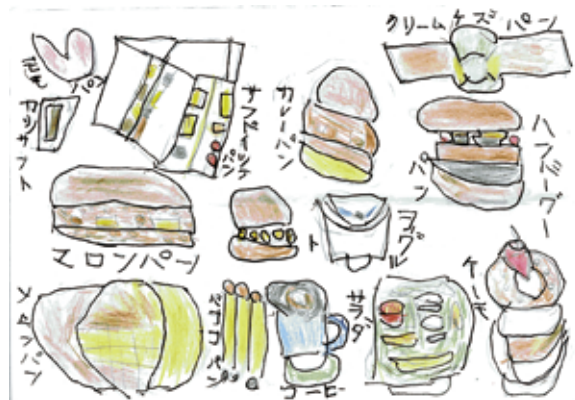
25回卒 小林竜一

口はロボットの口のうたをうたうと、おいしいパンがうかびます。

「パンとわたし」

21回卒 植田久

私は、惣菜パンが好き。パンを食べ始めたのは、2歳頃だったとか。いろんなパンを覚えているのは、伯母(母の姉)が母に教えてくれて焼いたパンを食べたこと。パンを好きになってきたのは、中2・3年の頃。私の好きなベスト3、①コーンパン(焼き肉の上にコーンとマヨネーズをのせて焼く)②あんパン(木村屋で働いていた頃から)③アップルパン(母がりんごを煮



注: Viva 若竹ミュージカル Part Iは97年公演プログラムに、
Part IIIは2005年公演プログラム、
Part VIは2007年公演プログラム、
Part IXは2010年公演プログラム、
Part IVは2006年東久留米公演プログラム、
Part VIIは2008年公演プログラム、
Part Xは2010年小金井祭公演プログラム

Part IIは2001年公演プログラム、
Part Vは2006年公演プログラム、
Part VIIIは2009年公演プログラム、
Part XIは2011年小金井祭公演プログラム、

にそれぞれ掲載

小林美沙子

最近のパン屋さんには沢山の種類がならんでいます。家にロボットがいて食べたい時に焼きたてのあたたかい、美味しいパンが“チーン”と出来たら楽しいだろうなあと、ミュージカルを見ながらつい考えています。

「パンとわたし」

25 回卒 田口雅之

ぼくは、パンが大好きです。一ばんすきなのはハムサンドです。そのつぎはクリームパンです。まい日たべたいです。

田口みどり

雅之が3～4歳の頃、青山の先生のもとへ親子で通っておりました。場所柄、最先端のお店が並んでおり、何気なく入ったA店のパンがどれもおいしく、自宅付近で売られているのとは格段の差がありました。最近になり、久しぶりに入ったそのA店のパンを食べて「エッ！」と何か不思議な気持ちになりましたが、自分の舌が肥えた事もあります。何処のパン屋さんも技術があがり、それ程の差がなくなってきたのでしょう。若竹ミュージカルも、年ごとに目の肥えたお客様ががっかりなさらない様なミュージカルにしていかなば・・・と思うこの頃です。

25 回卒 木村智子

はじめてパンの缶詰を食べました。イチゴ味の缶詰をシーチキンの缶詰と同じように開けました。空気にふれたらふう～っと大きくふくれるのかと思ったけれど缶詰の大きさと同じでした。やわらかくて小さい赤いちごの実がいっぱいで、とっても美味しくてもっと食べたかったです。干しぶドウやオレンジ味などいろいろな味のパンもあります。災害にあった時にこんな美味しいパンがあったら元気になれそうです。

木村希代子

私の幼い頃にはパンは売っておらず、母親がメリケン粉にふくらし粉を入れ、フライパンで焼いたりアルマイト製のお弁当箱にタネを流し入れて蒸し器で蒸してくれたりしたものです。最近パンの缶詰まであることを知り驚きでした。それを作っているアキモト社長のお話はそれ以上の驚きです。阪神大震災の時に支

援物資として送ったパンが日持ちをしないことがきっかけで、パンの缶詰という画期的な商品を開発されました。その社長の考え方は チェンジ、チャレンジ、チャンスの三つのCです。変わるぞと宣言してチャレンジすれば、そこにチャンスがやってくるがアキモト社長の考えと実行力でした。この缶詰パンは宇宙ステーションの食事にも出されています。社長の大好きな言葉は「気楽に頑張れ」気楽に物事を頼める友達をたくさん作れよということ。あきらめずチャレンジし続けていけば応援してくれる人がたくさん現れる。アキモト社長の考え方は若ミュージカルと似ている所があるなあ、と思いました。我々も今ではたくさんの支援者の方に恵まれています。チャンスはどんなチャレンジから生まれるのか楽しみです。

「たまごのサンドウィッチ」

25 回卒 近藤さと子

私はパンが大好きです。一ばんすきなのは、ゆでたまごのサンドウィッチです。ようちえんのおべんとうは、いつもサンドウィッチだったそうです。

近藤和子

5人家族でしたから、ドライブに行く時は3斤の食パンに、玉子、ハム、ツナ、チーズ、やさいなどはさんで、1口ぐらいの大きさに切って、運転しながらでも食べられるようにしていました。ポットにお湯を入れコーヒーや紅茶も入れて、渋滞をしても大丈夫なように。三重の実家に行く時は余分に作って持って行くと母が喜んで、おいしそうに食べていたことを思い出します。最近あまり作りませんが、朝早く出かける時、前の晩に玉子と玉葱をマヨネーズでまぜたのを作っておくと朝食の支度が早く出来ます。それぞれ自分ではさんだり、レタスにつけたり自由に食べています。久しぶりにサンドウィッチが作りたくなりました。

「私の好きなパン」

27 回卒 小野寺邦江

私はクリームパンが大好きです。いつもパン屋さんに行くときクリームパンを買います。学校の給食で出るパンはカレーパンや、きな粉パンや、焼きそばパンがおいしかったです。今は食パンに玉子やハムを入れたサンドウィッチがおいしいです。テトが作るパンも食べてみたいです。

「思い出のコッペパン」

小野寺恵江

終戦後の食糧難だった何もない時代のコッペパンは本当に美味しかったです。そのコッペパンでさえ自由には買えず配給制でしたので、家族分のチケットを持って行かないと買えませんでした。パン屋さんといっても今のようなお店はなくパン工場のようなところで棚もケースもなく木製の箱に入っているだけでした。あとは母が工夫をして蒸しパンのようなものを作ってくれたり、さつまいもの粉（生のさつまいもをスライスして粉にしたものです）でパンのようなおだんごのようなものを作ってくれました。何か寂しい侘びしい話ばかりですみません。今はパン屋さんに行くとか何とか迷ってしまう幸せな時代になりました。でも最後はこんがり焼けた食パンにバターを付けたのが最高かな？……。

「パパパパ パンのこと」

近藤由紀子

パンは一体、いつ頃から食べられるようになったのでしょうか。食べるばかりで考えた事もなかったのですが、4千年前に作られたパンが、ロンドンの大英博物館で見ることが出来ると聞きました。パンの誕生は、紀元前7～4千年頃のメソポタミア流域とされていて無発酵のパンだったそうです。発酵した生地を焼くパンは、古代エジプト人がパンづくりを途中でやめてしまい、放置されたパン生地は、翌日ふっくらよい香りがして、焼いてみると大変美味しいパンが出来たのが始まりだったようです。パンだけではなく、例えばペニシリンもそうですが、ふだんやらない事が、思いもよらぬ良いものにつながり、多くの人に幸せをもたらしてくれました。本公演も、思いもよらない発酵の力を借りて、ふっくら大きな舞台となりますようお願いしております。

「パンとわたし」

27回卒 鈴木真奈

わたしは、パンと聞くと、食パン、バターロール、クロワッサン、「ツナ、たまご、やさい、ハムなどのサンドイッチ」を思い出します。食べた瞬間に、「あー、おいしいな！」と幸せを感じます。こんどのオペラは、

パン製造ロボットの物語です。楽しく演じます。

「パンとわたし」

鈴木文雄

私は、最近、娘をグループホームへ入居させ、独りで生活しています。朝食は、永年の習慣でパン食です。食パンにバター、マーガリンを塗って、レタス、ハム、チーズをトッピングしてオーブンで焼いて食べます。別に、レタス、きゅうり、ピーマン、トマトなどの生野菜に、ゆで卵かスクランブルエッグなどを添えた一皿を食べます。モーニングコーヒーは、目ざましに必須です。時々、朝食を食べながら、家内が元気だった頃、毎朝、焼いて呉れたバターロールの味の美味しかったことを思い出します。今回のオペラでは、バックコーラスの一員としてパン製造ロボットと町の人を演じます。

私は、最近、腰痛を抱え、そろそろ引退の年齢になりましたが、今回は、老骨に鞭打って、一生懸命演じます。皆さん、子供たちの熱演を大いに楽しんで下さい。

「パン大好き」

27回卒 盛生正子

私の一番好きなパンはソーセージパンです。お姉さんは、トースト、お母さんはアンパンです。お給料をもらうと時々買ってあげます。今日はソロで最初に歌います。がんばります。

「あきらめないこと！」

盛生桂子

初めて“口はロボットの口”を聴いた時何て難しかったらう、私達が演じる事ができるのかしら、音ばかりに集中していると高音で内容もさっぱりわかりませんでした。私はこの間3年あまり闘病生活を送っており、朝、昼、夕と聴いている内にこのストーリーとテーマが私の人生とだんだん一致してきました。私の子供の頃はコッペパンの中にアンコが入って15円の時代でした。最近では見た目も美しい、かわいい、且つおいしいパンが作られています。大量生産も機械で作られます。私達親子の人生もパン作りと同様、試行錯誤していろいろな事に挑戦をして歩んできました。ミュージカルに出会った18年前を振り返ると、正子

はひとことのセリフが言えず本番でやっとのことと言える事ができました。今も脳裏にやきついています。これは絶対にあきらめないで可能性を信じて必ずできる様になると今までやってきました。真に“継続は力なり”です。私もこの子供のおかげさまで共に大きく成長できたかなと思います。一生に一度の人生を輝いて生きていきたいと思います。今日のコンサートをみていただきテトの作るパンはみんなを幸せにするパンです。私達のミュージカルも皆さんに感動を差し上げられたら、この子らが世の光となって一隅を照らすでしょう。・・・すべての出会いに感謝。

「パンもいいなあー！でも僕はご飯が好き」

30回卒 伊藤公一

僕のパンの思い出は、体育館いっぱいパンの焼けるいいにおいがして、みんなと分けてひとくち食べた、あの焼きたてパンがすごくおいしかったことです。パンもいいなあーと思いました。福生あらたま寮の朝食は週に3日パンです。学園の人が焼くパンです。チーズパンやゴマの入ったパンです。でも僕はご飯の方が本当は好きです。パンだと仕事で荷物をだしたり、しまったりして働くと、お昼近くお腹がグウグウ鳴ります。ご飯で焼き肉やハンバーグ、トンカツをおかずに食べると力が出ます。僕は仕事人、だからご飯です。

「誠君のおばあ様のクロワッサン」

伊藤敬子

今から32年も前のことです。次男が三鷹市に新設された「わかば学級」に入学してマンホールが大好きな誠君と出会いました。たった二人の1年生。自然家族ぐるみのお付き合いになりました。グランドピアノでセレナーデを奏でるおじい様の側で白髪のおばあ様がパンやクッキーを焼かれる西洋のおとぎ話の様なご家庭でした。今のように沢山の美味しいパンがお店に並んでいない頃でした。三角のパン生地をクルクルと巻いて、はけで卵をさっと塗り焼き上げた、バターの香りがいっぱいのおばあ様のクロワッサンは、それは美味しいものでした。帝国ホテルでも味わえないような格別に美味しいクロワッサンでした。その後、別々の道を歩み、風の便りに誠君は群馬の施設に入所。お元気だったおばあ様は今夏の暑さが乗り切れずにお亡くなりになられたと伺いました。今でも忘れられぬお

ばあ様のクロワッサンの味。私の味の宝物です。

「“メロンパン”が好き」

30回卒 清野友規

ぼくは小さい時はバタートーストきり食べませんでした。でも、学校の給食でだんだん、色んなパンを食べられるようになりました。今は、メロンパンが一番好きです。テトのメロンパンは大きいかな？食べたいです。

(小学校1年生の給食で初めてお砂糖のついた揚げパンが出た時、手に付いたお砂糖を“バッチィー”と言って振り落とし絶対に食べなかったそうです。・・・担任の先生のお話)

「母の手作り “パン”」

清野三千子

日本が終戦を迎えた時、私は小学校4年生でした。当時は凄い食糧難の時代で満足な食べ物はなく、勿論、パン等何処にもありませんでした。

その頃、母は有り合わせの材料でパンを焼いてくれたのです。小麦粉と重曹と砂糖を混ぜ、牛乳で硬く練り上げ、オーブンもない為、フライパンで弱い炭火のコンロに乗せ、じっくり時間を掛けて焼きました。どの位、時間が掛ったか覚えていないのですが、それが厚さ5cm位に膨くれ、表面にこんがり焼けた目付き見事なパンが焼き上がりました。待ちに待っていた、私達に母がそれを切り分けてくれ、私は無中で食べましたが、本当に美味しく、あの味は忘れられません。これも、材料が手に入った時のみの楽しみで、しばしば食べる事は出来ませんでした。それから、数年後、学校給食にコッペパンが出るようになり、町にも小さなパン屋さんが出来ました。

こんな昔、テトだったら、どんなパンを焼いてくれたでしょう。パンの歌を歌いながら、フト、母の手作りパンを思い出しています。

「パン！！」

31回卒 相磯岳史

パンが好き嫌い？と聞かれたら！！目の前にあれば食べるけれど、自分で買ってまで食べたいとは思わない。だから好きでも嫌いでもなく普通だと思う。でも

「口はロボットの口」のパンは甘くて良い香りで美味しそうだから、食べてみたい気持ちにさせてくれる。そうしたらきっとパンが大好きになると思う。

相磯君絵

店の前を通るとパンの美味しそうな匂いがプーンと鼻をくすぐる。その匂いにつられて店の中へ入る。いろんなパンが並んでいて、全部美味しそうなので、あれこれと買うのに迷ってしまう。でも結局いつも食べなれているものを手に取ってしまう。若い頃朝食にパンを食べていた時もありました。今はパンもよいけれど、白いご飯が一番と思うようになっていきます。

「ぼくとパン」

31回卒 小島諭

『口はロボットの口』の歌で、ぼくはいろいろなパンがでてくる「♪パン工場」の歌が一番好きです。ぼくはお母さんが作る「くるみパン」がすきです。ぼくのとくいなことは台所をピカピカにすることです。

「パンと言えば・・・」

小島訓子

諭がまだ小学校の低学年だった頃、近所にパンの専門店ができました。今では当たり前のことですが、そのパン屋は入り口でトレイとトングを自分で持って、陳列台にならんだ自分の好きなパンを取ってトレイに入れるのです。私は、パンの匂いと種類の多さに幸せを感じたものでした。夕方の何度目かの出来上がり時間に合わせ、まだまだ脱走癖の直らない諭をつれパン屋に行きました。彼は“好きなパンを選ぶ”と言う事が出来ませんでした。一番始めに眼に入ったパンをトングでつかんでトレイに入れるのです。この子は自分で選ぶと言う事ができるようになるのかなあ～、と情けなく思ったものでした。いつの頃からか・・・・・・。彼は陳列台の前で「う～～んと、え～～と」と言いながらパンを選べるようになりました。そしてパンだけでなく、居酒屋でのメニュー選び、着るものから出掛けるところなど自分で希望が伝えられるようになりました。女の子の好みも???

「我が家の朝食」

31回卒 坂井智明

朝は、お母さんの作ったパンのにおいで目がさめます。ふんわり柔らかなおいしいパンのにおいです。お父さんは手作りジャムをたっぷりつけて食べます。私はピザソースとチーズをたっぷりのせてピザパンにして、私の入れたコーヒーと一緒に食べます。くるみののったあんぱんも好きです。パンパンパン大好きです。

「パン作り」

坂井照子

何しろパンが好きで私。お米が無くてもパンさえあればと言う程パンが好きです。新しいオーブンを買った時、パン作りが始まりました。たたいて、たたいて、もんで、伸ばして、丸めて、一時発酵、二次発酵、いやはや大変です。オーブンの中で、ふんわりふくらんで、出来上がるまでのわくわく感がたまりません。たたいて、たたいて、もんで、伸ばして、ついに肩が上がらなくなりました。今ではホームベーカリーの力をかりて、楽しんでます。いろいろ混ぜたり、包んだり、のせたり、アレンジのきくパン。家族に“ハイ食べて”とさし出す私。パン作りが大好きです。

「ぼくのたべものについて」

31回卒 藤江真二郎

ぼくの朝食はバターロールとミルクティです。お昼は職場で中華麺とご飯とアイスコーヒーを食べています。夜はあったかいご飯といろいろおかずを食べるのが好きです。休みの日にはおやつにイチゴショートケーキを食べることが大好きです。

「コタツでパン」

藤江もと子

ずっと昔、冬になると雪がたくさん降る街に住んでいました。朝からどどん雪がつもる日は、パンを焼きます。まず強力粉を計って、卵とバターと、ちよっぴりの塩、砂糖、ミルクを入れ、力強くこねます。伸ばしてたたんでまとめてこねてたたいてこ

ねて（ここまでは歌の通りです）、丸くまとめて大鍋に入れ、蓋をして大きな布に包みます。これをコタツに入れて、私も一緒にコタツに入って、じっと発酵するのを待つのです。大きく膨らみました！最初は押しつぶしてもう一度まとめてコタツへ、二度目に大きくふくらんだら発酵は終わり。私の得意はバターロール。ちぎって伸ばして細長い三角にして、くるくる巻いて、卵汁を表面に塗って、さあ、オーブンへ。

良いにおいが部屋中にただよって、そろそろ焼けてきたようです。

「どれどれ、どんな具合かな」まず一つ、パクパク。
「おっ、うまくできているぞ」もう一つ、パクパク。
「こっちは焼きいろが良いぞ」ついつい、パクパク。
「ああ美味しい！焼きたてってどうしてこんなに美味しいの」パクパク。

沢山作ったバターロールがどんどん減って行きます。

そして数日後、私のからだはパンと同じようにふっくらとふくらみました。

おわり

「パンとわたし」

31 回卒 小林美保

わたしは、カレーパンが大好きです。メロンパンも好きです。お母さんは今は手作りのパンを作らないです。

「パンとわたし」

小林春江

私がパンで思い出すことは、小学5、6年生の時です。放課後、先生が希望者にそろばんと書道を教えてくれていました。もちろん無料です。土曜日の練習もあり、楽しみ（1）なのは、この日にパンが食べられることです。楽しみ（2）、皆で学校の近くのパン屋さんにパンを買いに行くこと。パンはコッペパンです、横から切れ目を入れて、何を付けるかが？楽しみ（3）、いちごジャム、ピーナツ、バターの中から選ぶこと。迷います。人気はいちごジャムのようなのでした。一個15円也（ジャムなし10円）の記憶があります。この頃は何をしても楽しく又おもしろかった。家の手伝いもしました。今日は久し

ぶりに小学時代のことを思い出し懐かしさが込み上げて来ました。

「パンとわたし」

31 回卒 谷山いづみ

私の好きなパンは、ハンバーガーやチョコレートパン、コーンパンなどです。「パン工場」を歌っていると、テトの作ったいろいろなパンが食べたくなってきます。

谷山洋子

私はパンはやわらかい生地でも、フランスパンのように堅くても、ベーグルのようにもちっとしたパンでも何でも大好きです。食欲のない時でもパンなら食べられます。最近パン屋さんで「パン工場」に登場するパンをみつけると、思わず「ユーフォーにってるメロンパン」と口ずさみながら、いろいろなパンを買うようになりました。「パン工場」では焼きたてパンの香ばしい匂いを想像しながら、パンロボットとして歌い、他の曲では町の人として楽しく歌っております。

「パンとわたし」

32 回卒 栗山和宏

ぼくは、パンよりご飯が大好きでした。でも妹がいつもパンとかケーキをおみやげに持って来ます。毎日楽しみです。ぼくが好きなパンはチョコパンとドーナツパンと肉が入ったパンです。妹が作ったパンもおいしいです。パンを焼くと台所がいいにおいがします。犬のイヴもパンが大好きです。みんなで食べているとイヴもほしがります。あげるといっばいよこびますが、腹をこわすから少しだけです。ぼくは食べすぎてでぶになりました。今は少しだけ食べます。がっかりです。

「パンと僕」

32 回卒 小林憲治・幸子

僕の好きなパンは、あんパン、クリームパン、カレーパンです。テトの作るパンも食べてみたいです。きっとおいしいです。でもやっぱり僕は“こはん”が好きです。

「パン大好き」

32 回卒 河西美保子

私はハンバーガーのお店ではたらいしています。たくさんパンがあります。レギュラーバンズ、セサミバンズ、ビッグマックバンズなどです。いろんなハンバーガー作ってます。金요일にお昼に食べるのが楽しみです。

家では朝パンを食べてます。バターロールや食パンやホットドッグのときもあります。いちばん好きなのはホットサンドです。レタスやハムやたまごやチーズをはさんでホットサンドメーカーでやきます。とってもおいしいです。

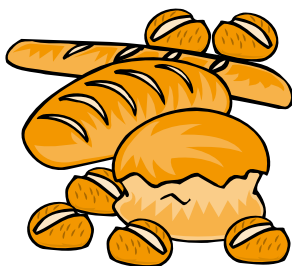
「パンの思い出」

河西正子

クローバーの形でジャムとクリームとあんこが入っている三色パン、食パンか給食のコッペパンぐらいいか身近になかった小学生の頃、祖父母宅で買ってもらいました。それは大げさに言えば非日常のもので、本当においしくて、暖かくて、幸せな気持ちになったものでした。ふんわりとした食感と甘い匂いは 50 年以上たった今でも懐かしい私の思い出のパンです。

10 年ほど前パン作りに挑戦しました。仲間とおしゃべりをしながら作るのは楽しく、ワクワクして出来上がりを待ったものです。「子供達のためにパンやケーキの小さなお店を作りたい」という友人達との会話がきっかけでした。結局習っただけで終わってしまいました…。「パン工場」を歌っていると、あの頃の心豊かなひとときが浮かんできます。笑顔で歌いましょう。

♪すっばくて甘いクランベリーパン、紫色のブルーベリーパン…コーンパン♪



「パン」

34 回卒 鈴樹裕一・勝子

家では毎朝食パンを食べています。三度ごはんにするとすぐ太るので、朝パンになりました。本人はあまりパンは好きではない見たいです。パンでも調理パン菓子パンが好き見たいで、とくにウイナーが入っているとかチョコレートパンが好みようです。月に一度位は食べますが……。あまり食べないようにしています。今はあきらめているようで文句ひとつ言わず食パンを食べてくれます。今のミュージカルで歌っている時、もしかしたら食パン以外のパンを思い出して歌っているかも……。

「パンと私」

35 回卒 春日喜代志・三枝子

小さい時はお母さんといっしょに、パンダのパンやカメのパンなどを作り、楽しんでいました。でも今はパンを作ることはありません。なぜ？焼き上がると、おいしい香りにがまんができず、つつい食べすぎて、二人ともふとってしまうからです。好きなパンはバターチーズパン。焼き立てのパン、本当においしいです！

「パンと私」

35 回卒 白川優子

私は、毎朝発芽玄米パンを、八枚切りにして食べています。よくかんで食べるようにしています。そこにうすいハムをはさんだり、ブルベリージャムをつけたり、庭のゆずを手作りにしたゆずジャムをつけて食べたりしています。とてもおいしいです。

白川博子

丈夫な胃腸、体を持ったわが娘、今はダイエットに励んでいます。なるべく自然野菜を家庭菜園で作って食っていますが、理想体重には、あと一歩です。

36 回卒 行友宏文

うたとおどり がんばります。ぼくは、カレーパンが好きです。

行友喜代子

宏文は、作業所に週 1 回来ていたパン屋さんから、

おいしいパンを1つ、買ってくることを楽しみにしていました。今は、パン屋さんがもう1件増えて、週2日、水曜日と金曜日に買ってきます。本当に色々なパンを買ってきて、今では、主人も私も楽しみにしています。特にカレーパンは、種類が沢山あるようです。宏文が扮するテトは、カレーパンを上手に焼けるかしら？ドキドキです。

「パンとわたし」

38回卒 石黒真衣子・芳子

友人がパン教室に通い始め、彼女のブログにアップされた写真をみるたびに「なんともいえん。い〜いにおいだぁ」と心の中でエドの台詞をつぶやいています。ホントに焼きたてのパンのにおいは食欲をそそるけれど、テトのおしりから生まれたパンは一体…？「やだぁ うんちみた〜い！」…いえいえ、勇気を出して食べてみたいです。

今回、私達親子にとっては2回目の小金井祭の舞台です。楽しんで、ドキドキして、会場が「なんともいえん。い〜いにおい」に満たされるような舞台になればいいな♪

「楽しいパン作り」

39回卒 戸田尚幸

僕はパンを少年時代に作った事があります。母と弟たちで楽しくパンを作った事を思い出します。その時の思い出をきっかけに、ごく最近になって久しぶりに母と二人でパンを作る事にしました。役作りのためにパンを作ってみたら、とっても楽しいと感じられるようになりました。僕は、舞台でもパン作りロボットとして、みんなに楽しくておいしいパンをもっともっと作ってみたいと思っています。

戸田玲子

息子たちが幼稚園の頃、ママ友とパンを習っていました。朝早くから粉やバターを計って、こねてまるめて…イースト菌で程良く発酵したパンの生地はほんのりと甘〜い匂い。手の中でやさしく丸めていると、ぷちゅっと小さい可愛い音がして、ガスが飛び出てきます。そして焼きあがったパンはエドの言葉「何ともいえんい〜い匂い」そしてジーンの様にと一口食べたなら二口。二口食べたなら三口…。家に帰りさっそくパン作りに挑戦すると、なぜか半分はい

つもコチコチ。それでも、「おいしいね！」と食べてくれた子供たちのパンみたいにふっくら可愛かったほっぺが忘れられません。パンはやっぱり幸せの味と匂い…！

「メロンパン」

39回卒 佐藤佳代

私はメロンパンが大好きです。スーパーなどで売っているメロンパンはパサパサしていて好きではありませんが、トラックで売りに来るメロンパンが好きです。2週間に1回本川越で売っていたのですが、来なくなってしまいました。でも家の近くのベルクに、日曜日に売りに来たのです。150円が170円になっていましたが、とてもおいしいのです。パンバンと大きな音がしてパンを焼いてくれます。外はパリッとして中はふわふわです。テトのパンはおなかの中の温度設定35度Cで作ってくれるので、もっとおいしいのかなと思います。テトのパンが食べたいです。

「フランスパン」

佐藤順子

もう50年も前のことですが、私の父が出張でヨーロッパに行って朝食にフランスパンを食べ、フランスパンの美味しさに感激し、それ以来朝食はフランスパンになりました。そのころは日本にはあまり知られていなく、梅田に行かなくては買えませんでした。今もフランスパンは大好きです。いろいろなお店のフランスパンを食べましたが、一番美味しいのがなんと家から一番近いスーパーに売っているものでした。岐阜に帰省するときには父にフランスパンを買って帰ります。

「我が家のホームベーカリー」

39回卒 清水志保子・美恵子

数年前、ある家電量販店のポイントが貯まり、不要不急の何かを買おうということで我が家にやってきたのが、ホームベーカリー君です。せっせと食パンやぶどうパンを作り、私たちは焼き立ての味を楽しみました。しかし、ほどなく我が家のキッチンには常時置いておくほどのスペースはなく、しまうこと

にしました。しばらくして、息子のお嫁さんが、パン作りをしたいと言って、又、このホームベーカリー君が活躍することになりました。今度は食パンだけでなく、メロンパンやコーンパンなど色々なパンづくりをすることになりました。お友達を招いて、ホームベーカリー君の作ったパンを食べてもらい、皆から「おいしい!!」と喜んでもらいました。そうなる嬉しらしく、レパートリーが増えて、ますます活躍するようになりました。お嫁さんは、まだ当分、戸棚にしまうつもりはないようですので、もうしばらく、ホームベーカリー君は活躍しそうです。

ちなみに、我が家は、近くのスーパーで買ってきたパンを毎日食べています。筋金入りの和食党だった我が家が、いつのころからか、朝食はパンになり、父親はシンプルな食パン、志保子はブドウパンにチーズを乗せて。母親の私はまだ納豆が恋しくて、ご飯にしたり、パンにしたり。でも大好きな味噌汁を飲む回数が減ってきています。我が家も世の中の傾向と同じようです。

41 回卒 長田翔平 (母)

パン・・・パン・・・パン・・・?

そう言えば・・・パン屋さんの試食コーナーに没しすぎてお叱りを頂いたことはありましたっけ。

45 回卒 戸谷さほ

このミュージカルを見ると、なかまとあいじょうとたすけあいときょうりよくをかんじます。元気が出ますよ。

戸谷好秀

「口はロボットの口」は歌えば歌うほど不思議に満ちています。登場人物は、変な名前ばかりです。マリリンモンローがママモンローと娘のマリリンに分かれます。ここでハリウッド映画が浮かんでヘンリー爺さんは、なぜかヘンリーフォンダを連想します。ヒロインはここに住んでいるからココです。主人公はなぜかテトです。旅でいくところはパン屋なのでイーストランドです。泥棒市場は「男は女、女は男」と変な歌を歌います。マグベスの魔女のようです。だからか、ココは強く、テトは男性のようですがあまり強そうではありません。ようするにいろいろなものか上下左右さかさまなのです。そして若

竹ミュージカルそのものも人生に対するそのような正しい混乱と楽しい連想を私に与えてくれます。

ところで、フランス語辞書では、ココは「可愛い坊や」、テトは、「頭」とあります。「先頭」という意味もあります。ココから、始めの音「あ」につながります。アッ、これでいいカネ、カネー……。教えて、作者の先生?

「パンと私」

47 回卒 加藤彩

私はパンが大好きです。毎朝チーズはちみつトーストを焼いて食べています。今、マイブームです。「口はロボットの口」の歌に出てくるクランベリーパンやブルーベリーパンも今度食べたいです。今までで、はまったパンは、チョココロネとメロンパンとフレンチトーストです。木曜日は、ヘルパーさんと一緒にマクドナルドへ行ってから買い物をする。いつもチーズバーガーセットを頼んで食べます。これもマイブームです。

パンはやわらかくておいしいです。味わって食べます。

「パンの思い出」

加藤亜紀

娘の作文を読んで、懐かしく思い出されることがありました。まだ娘が小学生のころ、食事に時間がかかり、毎朝遅刻をしないように苦労していました。そんな時に、早く食べられるフレンチトーストを作ってみたところ、娘も気に入って、毎日でも飽きもせず喜んで食べていました。そのうち食事でも何と人並みに食べられるようになり、いつの間にかフレンチトーストの出番もなくなりました。

今でもフレンチトーストというと、その当時のことが思い出されます。

「パンとわたし」

47 回卒 藤井佑樹

ぼくは今 若竹ミュージカルで『口はロボットの口』の練習をしています。11月の小金井祭で本番をやるので、練習は一生懸命にやっています。ぼくはカエルの役でゲロゲーロのセリフです。『口はロ

ボットの口』の中にパンがいっぱい出てきます。ぼくはパンが大好きです。バターロールが一番好きです。やわらかくていい匂いで美味しいです。白い食パンも好きです。バターはつけないのが美味しいです。お家でみんなでパンを作りました。機械で作りました。アツアツのパンをみんなで食べました。『口はロボットの口』の中で、パンの小道具をみんなが持ちます。みんなが作って来ました。美味しそうです。見て下さい。

「パン」

藤井弘美

美味しそうなパン・・・と聞くと真っ先に連想するのが『アルプスの少女ハイジ』に出てきた『しろいパン』です。子供の頃バターロールの薄皮をそっとむいて白く見えるようにしハイジの気持ちになって食べたものです。家庭でパン焼き器を購入し休日に焼いてみました。香ばしいいい匂いが漂いフワフワ熱々のきつね色のパンが焼きあがりました。おお～！と思わず歓声をあげてしまう程美味しそうでした。パンの魅力は、見ても・嗅いでも・触っても温かく気持ちを和ませ、高揚もさせてくれます・・・そう、まるで、若竹ミュージカルのように感じました。

「パンとわたし」

49 回卒 茂木季

わたしの一番好きだったパンは・・・保育園のときに母が作ってくれた「ハリネズミ」のパンです。土曜日に持って行っていました。今も、忘れません。今、よく食べているのは、はちみつトーストです！



「パンとわたし」

茂木千沙

わたしの母もパンを作っていました。当時は、ガスレンジに直接置くガスオーブンでした。発酵キー

などももちろん無くて、冬はこたつの中にパン種を入れて発酵させていました。不用意にこたつに脚をつっこむと、グニャッと発酵途中のパンがつぶれてよく母に叱られました。当然のことながら、ひしゃげたカッコ悪いパンを自己責任で食べることになりました。でも、パンがオーブンの中で焼き上がってくるときのあの香ばしい香りと焼き上がったばかりのパリパリした食感は何とも幸福な気分させてくれました。初めて、「クロワッサン」というリッチなパンを食べたのも、母の手作りでした。世界一美味しいパンだと感動したのを覚えています。今年78歳の母は今もパンを焼いています。最新のオーブンレンジです！わたしも、子どもたちのリクエストに合わせてデジザやコーンパンなど作ります。

49 回卒 関千晶・久江

千晶の好きなパンはブドウパンとクリームパンです。パン焼き器で姉たちがふあふあの食パンを作ってくれました。でも最近はママは作っていません。パン作り教室にも行ったのですが、続きませんでした。でも又誰かのために「おいしい」と言ってもらえるように頑張ってみよう。(母のつぶやき)

「ぼくのすきなパン」

50 回卒 堀内熙

ぼくのすきなパンは、ブルーベリーパンとソーセージパンです。チーズがついたソーセージパンがとくにすきです。若竹ミュージカルの中では、カエルといっしょに「ゲロゲロゲロ」とおどるところが楽しいです。

保谷のおじいちゃんとおばあちゃんに見てほしいです。

「新しい世界へ」

堀内和子

平成24年度新入団員の堀内熙(ひかる)と母です。若竹ミュージカルが生まれた1993年生まれの熙は、幼稚部入学以来14年間、ほぼ毎回公演を観ていたファンの一人でした。そして学校を卒業して、ミュージカルの仲間になれたことは、私達親子にとって新しい世界の始まりとワクワクしています。

主人公テトを見ていると、作業所でパン作りをし

ている友達を思い出し、そしてそれぞれの仕事を頑張っている友達を思い出し・・・大切な人々との絆を感じさせてくれます。ミュージカルを通して「♪～新しい希望と、新しい喜びと、新しい元気～♪」な新しい生活に向かっていきたいと思います。私にとってパンは、まさに元気の源となりそうです。皆さま、宜しく願いいたします。



若竹ミュージカルオーケストラ

パンとわたし

ホルン 飯島友香里

幼い頃からのパン好きが高じて、パン屋さんで2年ほどアルバイトをしたことがあります。早朝のシフトに入ると、焼きたてのパンをお店に並べる仕事があります。冷めてもおいしいのですが、やっぱり焼きたては特別。しっかり朝食をとっていても、焼きたてパンの香りでお腹が空いてきてしまいます。でも、焼きたてがお店に並ぶ時間はたいいてい仕事なので、焼きたてパンを食べられるチャンスはパン屋さんでもなかなかありませんでした。タイミングよく休憩があると、うきうきしながら焼きたてパンを食べる毎日。案の定、その時期は体重が増加。それでも、焼きたてパンの香りには勝てないのです。

「パンとわたし」

コントラバス 大串清文

パンで思い出すのは、今は廃校となった「奥多摩町立古里（こり）小学校大丹波（おおたば）分校」での給食の時間・・・木造校舎で各教室にあった、だるまストーブでトーストした食パンやコッペパン

の上でとろけるマーガリン。そして温めた牛乳。美味しく楽しい給食の時間でした。同級生8名で4年生からは本校舎へのバス通学。その本校舎に、長男、長女は1年生の時からバス通学し、早いもので長男はこの4月から同じく父が通った古里中学校に入学。いずれの校舎もエアコン完備で給食はごはん中心に。約30年の時間の流れをあらためて感じます。1歳10か月の次男が小学校、中学校に通う頃にはさらにどんな変化が・・・今から楽しみです。

パンとわたし

オーボエ 小澤耕平

我が家では毎朝パンを食べています。食パンを焼いて、ジャムを塗ったり、チーズを塗ったり。子供達はぶどうパンやクリーム入りのミニクロワッサンが大好きです。おばあちゃんはアンパンが好きで、よく食べています。僕はクリームチーズを塗った食パンにバジルを散らしたり、オリーブオイルを塗るのが好き。昼休みに楽器の練習に行ったりすると、昼食を取る時間がなくて、菓子パンで済ませることも多いです。手軽で美味しいパンは、僕たちの生活に欠かせません。パンに感謝をしながら、楽しく演奏したいと思います。

「パンの思い出」

ピアノ 工藤久美

忘れられないパン屋さんの思い出があります。祐天寺にある老夫婦で営む、夜中1時から開店するパン屋さん。パン好きの友達と一緒に行ってみました。お店のご主人が、私たちの選んだパンを1つずつ丁寧にゆっくりと袋に入れる姿に、なぜか心が動きました。1つ1つのパンを、丁寧に、ゆっくり、作る、作り続ける。1つのパンに人の生活の歴史が込められているように思えて、人間の1仕事に触れた忘れられない思い出になっています。普段はそれぞれ自分の生活や仕事をこつこつ頑張っている仲間達と観客の皆様が、今日は学芸の森ホールに集まって、「口はロボットの口」を一緒に感じられることを楽しみにしています。

ヴァイオリン 坂下万里子

私はまっしろなごはんが大好きだ。おかずがなくとも、炊きたての温かいごはんが食べられたらすごく幸せな気分になる。特に朝食は「絶対ごはん!」と決めている。そうじゃないと、いまいちパワーが湧いてこない。だから、朝起きて食卓にパンが並べられている日は、少しだけブルーな気持ちになる。「今日はパンかぁ…」パンが嫌いなのではない。ただただ、ごはんが大好きなのである。

そんな私にも「今朝はパンが食べたい!」と思う瞬間がある。おそ〜く起きた休日の朝。無性にパンが食べたくなる。食パンをオーブンでカリカリに焼いて、スープに浸して食べるのは最高だ。心も体もほっこりとあったかくなる。

ごはん、ときどきパン。そんなリズムがちょうどいい

ファゴット 佐藤寛治

去年に続いての「口はロボットの口」に参加させていただきますが オペラはモーツァルト、ヴェルディ、プッチーニ、ショスタコービッチなどは演奏しましたがこの様な書き下ろしのオペラは初めて去年は全くの手探り状態でしたが少しは私も含めて目鼻立ちくらいはできたのではないかと思います。去年の小金井祭、南アルプス市公演と皆様とご一緒させていたたきました。今回もどうか、よろしくお願ひします。

チェロ 島田栄子

演奏をしながらいつも考えてしまうこと。それは、テトが作るパンは一体どんなパンなんだろう、ということ。1000個も作れるなんて! 1000個も作るんだからロールパンみたいなパンかな、と思うけれど、でも「はちみつパン」みたいなとっても魅力的なパンの名前も出てきます。どれもこれも食べてみたい! 「日本人好みのパンばかりだな〜」

なんてことを考えながら演奏をしています。こんなに色々なパンを作るテトみたいなロボット、いたらいいですね!

チェロ 田中博

寒い時期になりました。そろそろ年の瀬が近づいていますね。日本では年越しといえばお蕎麦ですが、自分が住んでいたオランダでは、この時期には『オリボーレン』という、粉砂糖を塗したドーナツ菓子を食べる習慣があります。たくさんの出店(屋台?)が出て、オランダ全土のうち、どの店がおいしいかというランキングがインターネットに出されるほどの盛り上がりようです。またいつか年越しの花火を見ながら食べたいと、家族みんなで話しています。

パンの思い出

ヴァイオリン 谷口晶子

私は小学生の頃、埼玉に引っ越してきました。着いたのは夜。ガスの関係だったのでしょうか。まだ料理ができない新しいお家で、買って来たパンを家族で食べたのを覚えています。そして、新しい町の商店街にはパン屋さんが1件ありました。スーパーで買うパンとは違って、トングを使って好きなパンを取るということにいつもワクワク。小学生の私のお気に入りのパンは、動物パンでした。うさぎの形で、中には甘いクリームが。目はゼリーで口はチョコレート。本当においしかったです。

パンとともに子どもの頃の懐かしい思い出がいっぱいです。

「コッペ」

トロンボーン 谷口良二

パンと言えば、家では食パンでした。学校では、コッペパンでした。そういう時代でした。食パンは「食べるパン」だと想像ができるのですが、コッペパンの「コッペ」って何でしょうか。(「食べないパン」ていうのも想像できないが…画家さんが使うやつか?) 調べてみました。フランス語でした。「切られた」という意味の「クーペ」が訛ったらしいです。つまり、あれです。ホットドック用のパンです。間に何かを挟んで楽しむパンです。確かに、市販のコッペパンは切れ込みがあって、そこにジャムやマーガリンが挟まっています。給食の時のコッペパンは違いました。切れ込みはなく、ちぎってマーガリンにつけて食べていました。「コッペ」じゃないです。ダメじゃん

支援者

ヴァイオリン 蜂須健司

今回の舞台オケには、2回目の参加となります。前回の作品とはまた違う舞台に仕上がりと、その中で演奏に参加できることを光榮に思います。パンと聞いて、パッと思い出すのはメロンパンです。小学生の頃からお菓子感覚で食べています。現在も職場にパンを売りにくる方がおり、毎週メロンパンを買って食べています。メロンパンを食べて一息つくのがくせになり、メロンパンなしには生活できないでしょう。

メロンパン万歳！！

「パンのあれこれ」

ヴァイオリン 森永佳代

- パンは好き。
- シンプルなパンも惣菜パンも甘いパンも好き。
- 特に好きなのは、チーズの入ったパン、カレーパン、米粉パン。
- 朝食や昼食にはよく食べるが、夕食にはほとんど食べない。
- パン屋さんの雰囲気は落ち着く。
- パン屋さんでパンを買うとき、とても迷う。
- 「焼きたて」と書いてあると、つい買ってしまふ。
- 最近知ったパンはルバーブパン。

パーカッション 矢浪陽子

子どもの頃、海外へ引っ越しました。帰国した際、周りの人は「何が食べたい？お寿司？」なんて聞いてくれたわけですが、そんな周囲の期待(?)を裏切り、日本に帰ったらとにかく食べたかったのは、あ・ん・ぱ・ん！！それから、地元なじみのパン屋さんの、甘みがあってふわふわした食パン！「パンでいいの？」とびっくりされたものです。初めてのおつかいがそのパン屋さんだった私にとって、そのパンと、お店からただよう甘い香りと、パン屋さんのおじさんとおばさんの笑顔は大切な思い出。ママモンローを見ていると、遠いオランダの空の下、あんぱんを懐かしんでいたときのことを思い出します。

大野優子

パンというと、ごはん党の私は、なんとなく優雅な朝を思い描きます。休日の遅く起きた朝、特別でちょっと気取った感じ。

でも、イーストランドやウエストランドの人たちにとっては、毎日の、いつもと変わらない朝の風景なのでしょう。ごはん党の私がほかほかごはんを茶碗によそうとき、いつもの見慣れた風景だけれども、小さな幸せを感じる。そんな感覚と同じなのかもしれません。そんな、ほかほかした小さな幸せにみんなが包まれるといいなと思います。

若竹ロボットのパン

加藤富美子

たぶん、父親ゆずりなのでしょう。小さい頃からパンが大好きな私。初めて訪れた街のパン屋さん探しが趣味です。今までで一番おいしかったのは、もう30年も前に、ザルツブルクで毎朝、焼きたてを買いにいていたゼンメルンという小さくて皮がカリッとしたパン。一個10円ぐらいだったけど、それをサクッと横に割って、バターを塗ると、それだけで飛び切りのメニューになるのです。ずっと長い間、なかなかそれを越えるパンには出会えませんでした。ところが・・・。

若竹のみなさんと「口はロボットの口」に取り組むようになってから、これまで食べたことのない最高のパンといっぱい出会うようになりました。ブルーベリーパン、はちみつパン、マロンパンなど、パンロボットたちがつくるパン、そして、テトがウンウン言いながらつくるテトのパン。練習中、そのこうばしい香りで、私をどんどん幸せにしてくれた若竹ロボットたちがつくるパン。本番では、さらに極上のパンを味わえることと、とっても楽しみです！



「パンに成った花火？」

根本友己

口くでもない考えが浮かんだ。「パンと鳴った花火だ綺麗だな」の歌詞が纏い付いた。

はああああ！書くこと何もない、でパン？パン！パッパパンと苦しんだ結果である。

ロボットが恋をするのなら、花火がパンになってもいいじゃないか！

ぞいでみよう！どんなパンか、黒い袋に入れて破るとパンと音がして、色鮮やかな綿菓子みたいなパンが現れる。早く食べないと溶けてしまう。口に入るとパチパチはじけその刺激で目から火花が出てしまう。とらえどころない魅力は若竹ミュージカルと同じ。

口（くち）から出まかせのパンであるが、食べてください。泥棒市場で売ってるって！

「パンとわたし」

橋本明子

このテーマでふと考えたこと…。それは、私が演じさせていただく役の魔女ノーマはパンが大嫌い！！ということ…。なぜノーマはパンが大嫌いなもの…？人には多少の（？）好き嫌いはあるものですが、“パンが大嫌い！！”という人を私はあまり知りません。ソーセージやマヨネーズ、コロケ、たまごやチーズなど、色んな具材を使って作った調理パンも、あま〜い菓子パンも大好きです☆

小腹がすいた時についつい間食してしまったり…、私にとってパンはとても身近な食べ物です。そんなパンを、ノーマは大嫌いだと言っている！本番までに、もう少しノーマの気持ちを考えてみよう！と思ったのでした。

「マリリン・モンローへのオマージュ」

福井晴美

息子や娘が幼い頃、私は自宅でせっせとパン作りをしていました。パン製造ロボットのテトには遙か及ばないまでも、プロ仕様のガスオーブンを駆使し、本格的なパン作りをめざしていた日々でした。今は懐かしい思い出です。

さて、今回のオペラでは、マリリン・モンローの

名に因んだ人物（ママモンローやマリリン）が登場してきますが、実際にモンローの父がパン職人だったのには驚きました。このオペラの主題にも深く関わってきたであろうと思われる父の職業に続く更なる驚きはモンローの本名がノーマ・ジーン・ベイカーで、今回、「イーストランド城」の場で登場の魔女の名がノーマ、魔女の娘の名がジーンそのものだったことです。台本を書かれた鄭義信さんがモンローの大ファンで、彼女への敬意や愛情表現としてモンローをイメージさせる名前を作品の処々にちりばめられたのでしょうか？そう思うと、このオペラが今は亡きマリリン・モンローへのオマージュ作品にも私には見えてくるのです。

「メロンパンと私」

三輪禎子

私の大好きなパンは、メロンパン。

♪ UFO に似てるメロンパン と歌われるあのメロンパンです。中でも、この秋 富良野の富田農園で求めたメロンパン。メロンジャムが入っていて、外はあのパリパリ感。食べたのが、お腹がすいていて、食べるものがなかったときですから余計おいしく食べられたのかな？それに、イメージしていたメロンパンとは全く異なりました。メロンジャムが入っているんです。そしてパンの皮はメロンの網のように切れ目が入り、パリパリです。そう書いている今もあのふんわりとした香りが漂います。口の中は、メロンジャムで♪口いっぱい のよろこび です。

「私が好きなのは……」

山本正子

パンといえば給食。私が小学生の頃の給食に出たパンは、コッペパンしか思い出せない。嫌いではなかったが大きすぎて、いつもがんばって食べていたように思う。そしてウン十年たった現在、朝はパン食のことが多くなった。一年くらい前から、ライ麦や玄米などの入った白くないちょっと固めのパンを食べている。健康に良いと考えて食べ始めたのだったが、当初は食べにくくてジャムをこってりつけて食べていた。しかし最近では、ジャムなしで♪ふんわりやわらか・・・ではない固いパンの噛みごたえに、何故かはまっている。

若竹ミュージカルの沿革

- 1993 7 東京学芸大学教育学部附属養護学校
開校40周年記念若竹ミュージカル 発足
- 1993 8.1 第1回オリエンテーション
演目決定 『サウンド・オブ・ミュージック』
- 1994 1.15 ラジオジャパンにて1月9日の練習風景放送
1.16 若竹会新年会にて、歌を披露
1.22 東久留米市にぎやかカーニバル出演 (於 東久留米市中央公民館)
- 1994 6.15 開校40周年記念式典行事参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
8.6～7 合宿練習 (於 養護学校)
10.16 若竹まつりにて『サウンド・オブ・ミュージック』上演
11.3 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『サウンド・オブ・ミュージック』公演
東京学芸大学管弦楽団と共演
(NHK ニュース及び「NHK こどもの療育相談」に取りあげられる)
- 12.1 東久留米市にぎやかカーニバル出演 (於 東久留米市中央公民館)
- 1995 6 若竹ミュージカルを上演する会発足
9 9月より正嘉昭先生から演技指導を受ける
11.2 福祉文化学会主催福祉文化総大会参加 (於 横浜ラポール)
12.1 座談会—ミュージカルが「癒す」もの— (演劇と教育 1996年3月号掲載)
12.9 東久留米市にぎやかカーニバル出演 (於 東久留米市中央公民館)
- 1996 3 演目を『ウェスト・サイド・ストーリー』に決定
4 東京学芸大学管弦楽団OB・OG及び現役の有志により
ウェストサイドストーリーオーケストラ編成
指揮者に広井隆先生を迎える
8.3～4 オーケストラとの合宿練習 (於 養護学校)
10 若竹まつりの若竹おどりにて歌と踊りを披露
11.3 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『ウェスト・サイド・ストーリー』コンサート
ウェストサイドストーリーオーケストラと共演
- 1997 1 広報紙GO2ブロードウェイ創刊
5 オーケストラとの交流会 (於 奥多摩)
8.9～10 オーケストラとの合同合宿練習 (於 養護学校)
ウェストサイドストーリーオーケストラを
若竹ミュージカルオーケストラと改称
舞台監督に宮上直也氏 (故人) を迎える
10.11 『ウェスト・サイド・ストーリー』公演 (於 三鷹市公会堂)
11.2 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『ウェスト・サイド・ストーリー』公演
11.23 '97山の都ふれあいコンサート参加 (於 山梨県民文化ホール)
『ウェスト・サイド・ストーリー』公演
- 1998 5.3 オーケストラとの交流会 (於 養護学校)
6.14 日本発達障害学会33回研究大会特別公演 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『ウェスト・サイド・ストーリー』コンサート
8.8～9 オーケストラとの合同合宿練習 (於 養護学校)
- 1999 3.7 『サウンド・オブ・ミュージック』コンサート (於 東京学芸大学芸術館ホール)
5.2 オーケストラとの交流会 (於 養護学校)
8.7～8 オーケストラとの合同合宿練習 (於 中央アルプス駒ヶ根)
- 2000 1.10 東京都盲・ろう・養護学校総合文化祭「舞台芸術・演劇祭」特別出演
『サウンド・オブ・ミュージック』(第1幕より)上演 (於 東京芸術劇場中ホール)
舞台監督に黒木辰男氏を迎える
3.5 『サウンド・オブ・ミュージック』(第1幕より)公演 (於 所沢市民文化センター・ミュージズ)
8.19～20 オーケストラとの合同合宿練習 (於 養護学校)
10.9 『サウンド・オブ・ミュージック』全幕公演 (於 所沢市民文化センター・ミュージズ)
11.5 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『サウンド・オブ・ミュージック』全幕公演
- 2001 1 次回演目を『屋根の上のヴァイオリン弾き』に決定

- 5.4 『サウンド・オブ・ミュージック』 全幕公演 (於 リューとぴあ新潟市民芸術文化会館・劇場)
- 8.11~12 オーケストラとの合宿練習 (於 養護学校)
- 11.3 若竹ミュージカル映像制作部による「ドキュメント新潟公演」完成
- 11.4 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
「ドキュメント新潟公演」上映会&出演者と語る会
- 2002 8.10~11 オーケストラとの合同合宿練習 (於 養護学校)
- 11.3 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『屋根の上のヴァイオリン弾き』コンサート
- 2003 8.9~10集中練習 (於 養護学校、ルネこだいら)
- 11.2 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『屋根の上のヴァイオリン弾き』第一幕より
- 2004 1.10 若竹会「新年会・成人式」にて、『屋根の上のヴァイオリン弾き』から一部を披露
(於:成美教育文化会館 グリーンホール)
- 3.28 「しずおかおもちゃ図書館開館 20 周年記念」コンサートに出演
(於 静岡市民文化会館大ホール)『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演
- 8.7~8 集中練習 (於 養護学校)
- 10.31 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演
- 2005 1.23 広報紙 GO2 ブロードウェイ 100 号発刊
- 5.8 東京公演 (於 武蔵野市民文化会館大ホール)
『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演
「僕たちのブロードウェイ」発行
- 11.6 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『若竹ミュージカル 12 年の軌跡』コンサート
- 2006 5.6 若竹ミュージカルコンサート東久留米公演、『僕たちのブロードウェイ』
(於 東久留米市立中央公民館ホール)
- 7.22~23 オーケストラとの合同合宿練習 (於 藤野芸術の家)
- 11.5 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『サウンド・オブ・ミュージック』ハイライト版
- 2007 3.23 第 1 回附属学校の輪・カーニバルに参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
- 7.14 若竹ミュージカル公演『サウンド・オブ・ミュージック』全幕 (於 ルネこだいら)
- 8.19 わくわくコンサート 5 周年記念公演に出演 (於 長崎ブリックホール)
『サウンド・オブ・ミュージック』全幕公演
- 11.4 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『サウンド・オブ・ミュージック』全幕公演
- 2008 3.22 第 2 回附属学校の輪・カーニバルに参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
- 11.2 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『屋根の上のヴァイオリン弾き』ハイライト版
- 2009 3.20 第 3 回附属学校の輪・カーニバルに参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
- 11.1 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演
- 2010 5.2 2010 若竹ミュージカル公演 (於 武蔵野市民文化会館大ホール)
『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演
- 7.24 筑波大学附属久里浜特別支援学校「きらきらコンサート」に出演
- 11.21 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館・学芸の森ホール)
オペラ『口はロボットの口』コンサート
- 2011 1.10 ドキュメンタリー映画“空想劇場～若竹ミュージカル物語”の完成上映会
(於 成美教育文化会館)
- 8.22 星槎賞受賞 (第 20 回アジア知的障害会議 in 濟州島)
- 11.3 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館・学芸の森ホール)
オペラ『口はロボットの口』公演
- 11.26 南アルプス市連合 P T A 学習会 (於 南アルプス市櫛形生涯学習センター あやめホール)
オペラ『口はロボットの口』公演
- 2012 7.22 広報紙 GO2 ブロードウェイ 200 号発刊

テトのパンはあ

テトのパンはあ

あいうえおのあ

忘れていた青空のあ

いつまでも見つめ続けていた

ああああ

あの遠い夏の日の 青空のあ

テトのパンはあ

あいうえおのあ

夕焼けのあかね雲のあ

どこまでもあかとんぼ追いかけていた

ああああ

あの遠い秋の日のあかね雲のあ

テトのパンはあ

あいうえおのあ

白い息のあぜみちのあ

さくさくと霜柱ふみしめた

ああああ

あの遠い冬の日のあぜみちのあ

テトのパンはあ

あいうえおのあ

あたたかい雨上がりのあ

水たまりに桜の花びらが浮かんでいた

ああああ

あの遠い春の日の 雨あがりのあ

テトのパンはあ

あいうえおのあ

晴れた日も曇った日も 雨の日も

哀しい時も 苦しい時も 淋しい時も

やって来る

朝のあ

新しい希望と新しい喜びと

新しい元気が窓叩く

朝のあ

ああああ

新しい朝のあ



若竹ミュージカル

〒 203-0004
東京都東久留米市氷川台 1-6-1
東京学芸大学附属特別支援学校内
若竹会
若竹ミュージカル